

国立大学法人  
宇都宮大学  
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

# UU ユー・ユー・ナウ n now

2016年4月

## 地域デザイン科学部

**START!** “まちづくりのプロ”を育てます



科学の力を地域に活かす  
新しい地域づくりは ここから始まる

2016年4月

特集1

地域デザイン科学部**START!** “まちづくりのプロ”を育てます

塚本 純 初代学部長 地域デザイン科学部 を語る

特集2

宇都宮大学グローバルサイエンスキャンパス  
iP-U 宇大の科学人材育成プログラム

### CONTENTS

- 8 OB. OG. INTERVIEW
- 10 Welcome to 授業
- 11 Welcome to 研究室&ゼミ
- 12 研究keyword / 私の学生時代
- 14 宇大生は今!
- 15 UU News
- 16 INFORMATION

# 2016年4月 地域デザイン科学部 START!

塚本 純 初代学部長 地域デザイン科学部 を語る!



U-tunes ■ 新学部「地域デザイン科学部」の概要や各学科の内容について、動画でもご覧いただけます。

[http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u\\_tunes/index.html](http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u_tunes/index.html)



平成28年4月にスタートする宇都宮大学の新学部「地域デザイン科学部」ですが、この8月、設置計画が正式に文部科学省から認められました。新学部の学部長に内定している教育学部の塚本教授に、新学部の特徴やその魅力、目指す教育や養成する人材育成像などを聞いてみました。

地域デザイン科学部は、地域デザインの実践力を身につけて、まちづくりのプロを育てる学部です。そもそも「地域デザイン」とは何か。私たちは、こう考えます。

「地域」とは一人ひとりの身近にある空間や社会であり、学ぶ対象、学びのフィールド、学びを還元するところです。学びのフィールドは栃木県になりませんが、そこでの学びは他の地域での活動にも必ず役立つ、普遍的なものです。「デザイン」とは、課題解決へ向けた道筋、すなわち設計です。「設計」という言葉には工学的な意味もあるし、社会科学的なデザインも含まれ、幅広く総合的な作業と捉えています。

ところで、今、私たちの身近にある「地域」では、人口減少や少子高齢化などに端を発する、多くの新しい課題があります。空き地・空き家の増加や地域経済の衰退、災害に備えた、まちづくり、などです。こうした課題に対して、総合的な観点から、まちづくりを進める必要性が高まっており、それらを支える知識・技術が社会から強く求められています。地域の魅力を引き出してよりよい地域を形成するために必要な公共政策、福祉のまち

づくり、都市計画、防災といった、分野横断の「まちづくり」に関わる幅広い知識と専門技術を、文系理系の枠に捉われず総合的に学べるのが、「地域デザイン科学部」です。

地域貢献度が全国有数の宇都宮大学ですが、本学部は、地域の知の拠点となるべく教育研究を強化していきたいと考えています。これまでの個別授業と地域との強い関係を組織的にまとめ、地域とのつながりを大切にしながら、地域への貢献を進めたいと思います。そのために設置する「地域デザインセンター」を地域へのプラットフォームとして、学部としての活動を活性化したいと考えています。

教育面では、3点の大きな特徴が挙げられます。柱となるのが「地域対応力」を養成する学部共通の授業です。学部生全員が1年次から3年次にかけて段階的に地域で実践的に学び、「地域と向き合う力」、「実態を調査し分析する力」、「課題を解決へ導く力」を身に付けます。そして、専門科目はすべてアクティブラーニングを取り入れて、能動的な学修を強化し、主体性・能動性を培います。また、「地域プロジェクト演習」など3学科混成の学部共通授業では学科の枠を超えて学び、地域での学修により、協働力を培います。

これらをベースに、3学科それぞれで特色ある教育を行います。コミュニティデザイン学科では、地方自治や観光、福祉などの観点から地域社会について学びます。学内のこれ

までの教育を引き継ぎ発展させた、あらたな「まちづくり」を考える魅力ある学科です。建築都市デザイン学科では、建築を核として人に優しい居住環境や都市について、社会基盤デザイン学科は、最先端の建設技術をもとに安全で持続可能な社会基盤整備について学びます。こちらは、実績ある工学部建設学科の教育研究を維持しながら、新たな分野を加えて魅力ある教育プログラムです。

いずれもが、それぞれの専門性と地域の現場で真の課題解決を備えた人材養成の体制を整えられたと考えています。目指す人材像は、地域の課題を理解し、各地域の資源や特性を活かした「まちづくり」を支える専門職です。現場でのリーダーになれる人材を育成し、地域に送り出したい。卒業後も自己の成長が図れ、20年後ぐらいに開花する基礎力を身に付けてもらいたい、と考えています。

つかもとじゅん 塚本 純

■PROFILE

1981年、東北大学経済学部経済学科卒業。86年、同大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程単位取得退学。83年、経済学修士（東北大学）。長野経済短期大学経済学科を経て、90年、宇都宮大学教育学部講師。92年、同教育学部助教授。2003年、同教育学部教授（現在に至る）。05年、宇都宮大学生涯学習教育研究センター長（09年3月まで）。09年、同学長特別補佐（12年3月まで）。11年、同基盤教育センター長（現在に至る）。12年、同副学長（15年3月まで）。

専門分野：理論経済学・経済政策論



## 宇〜太が行く! 番外編 新学部「教えて!先生!」Q&A

### 新学部の入試について教えてください!

宇〜太が受験生みんなのために、受験生の気持ちで新学部の先生に聞いてみたよ! 回答してくれるのは入試を担当している海野寿康(うんの としやす)先生です。よろしくをお願いします。

Q 工学部の建設学科や、教育学部の総合人間形成課程は平成28年度の入試情報には掲載がありませんが、なくなってしまったのですか?建設学科を受けたかったのに残念です。他の大学を受けなくてはならないのかな?

A そんなことはありません!建設学科の建築学コースと建設工学コースは、それぞれ新学部の建築都市デザイン学科と社会基盤デザイン学科に移行します。建設学科の受験を検討していた方は安心して新学部を受験してください。従前の学びに加えて地域デザインに関する新しいカリキュラムも学修できます。また、教育学部の総合人間形成課程は募集停止となりますが、そのエッセンスを受け継ぎコミュニティデザイン学科として生まれ変わります。こちらの受験もぜひ検討してみてください。

Q コミュニティデザイン学科の一般入試では、文系型、理系型どちらでも受験可能ですが、どちらが有利ですか!

A どちらが有利ということはありません!文系型、理系型で特段の差はなく、配点も一緒ですので、ご自身の高校での履修状況などを踏まえ得意な方で受験してください。

Q コミュニティデザイン学科の一般入試で、センター試験で文系型を選択した場合、個別学力検査でも国語を選択しなければいけませんか?

A そのような制限はありません。センター試験で理系型を選択した人が個別学力検査で国語を選択しても、センター試験で文系型を選択した人が個別学力検査で数学を選択しても問題はありません。

Q 地域デザイン科学部一般入試後期日程の面接、造形実技、小論文について、どのような内容になるのか、教えてください!

A ・コミュニティデザイン学科では「面接」を課します。「面接」は、地域社会(コミュニティ)についての関心と学修意欲、本学科での適性・能力などを評価します。  
・建築都市デザイン学科では、「造形実技」を課します。「造形実技」は、立体・空間の構成を把握する能力、表現する能力及び色彩感覚等を検査します。  
・社会基盤デザイン学科では、「小論文」を課します。「小論文」は地域が抱える問題点や解決に向けた方策、または住民を幸せにする社会基盤の在り方に関する考えなどを問います。これらに加えて、選抜要項等に掲載されている各学科のアドミッション・ポリシーも参考にしてみてください。

Q 前年度まであった建設学科受験の際の、建築学コースと建設工学コース間の第1志望、第2志望の取り扱いはどうなるのですか?

A 地域デザイン科学部としてはそれぞれ「建築都市デザイン学科」「社会基盤デザイン学科」としての募集となり、前年度のような第2志望の取り扱いはありません。例えば、一般入試前期日程は「建築都市デザイン学科」へ、後期日程は「社会基盤デザイン学科」へ出願することはできます。

Q コミュニティデザイン学科は、学科のカリキュラムを見ると、文系の科目を選択して受験した場合、理系の授業についていけないのではないかと心配です。

A 個別に適切なフォローアップを指導教員が行いますので、ご安心ください。

Q 建築都市デザイン学科は、以前の建設学科建築学コースとどのようにちがうのですか?

A 以前の建築学コースでのカリキュラムを基本的には継承しますので、建築学を中心とした学修内容に変わりはありません。従前と同様に、1級建築士の受験資格も取得可能です。これらの内容に加えて、新学部の地域デザインに関するカリキュラムも学んでいきます。

最後に、先生からのコメントとして、後期日程の募集人員が増えているので、他大学と比べると受験者にとって有利なのではないかということでした。また、ご自身が所属される社会基盤デザイン学科のアピールとしては、近年の自然災害への対応や社会インフラの海外輸出などニュースで話題ですが、防災マネジメントや海外プロジェクトをやりたい学生さんに来てほしいとのことでした。海野先生、答えにくい質問にも熱心に答えていただき本当にありがとうございました!



## 新学部の校舎について教えてください!

### 「アクティブな学びの空間」をもち「地域の知の拠点」となる新校舎建設

新学部の校舎が陽東キャンパスにできるということで、早速、宇〜太が建築デザイン・設計が専門の安森亮雄(やすもり あきお)先生の研究室を訪ねてきたよ。

Q 新学部の校舎が陽東キャンパスにできるという話は本当?いつ頃できますか?

A 本当です。計画では、新入生が3年生になる2018年度から使用開始となっています。建設場所は陽東キャンパス北側、正門を入ったストリート沿いで現在の建設学科の校舎(8号館)に近い場所です。緑豊かなオープンスペースがある社会連携ゾーンに面し、地域に近く、地域と連携を取り易い場所に配置しています。

Q そうなんだ。とっても楽しみ。どんな校舎になりますか?

A 新学部の特色は地域との関わりの中で、従来の座学だけではないアクティブラーニングに取り組むことなので、活動的な学びができ、建物自体が「地域の知の拠点」になることを目指しています。3学科合同のレクチャラーワークショップができる大きなアクティブラーニング教室、図面や模型によるデザイン活動ができる地域デザインスタジオ、地域と大学の窓口となる地域デザインセンターなどをつくる計画です。シンポジウムなど地域の方にも利用していただき、建物の内外で地域連携が展開できるようにしたいと考えています。昨年度改修した建設学科の校舎では、学生・教職員の日常の居場所になる「オープンな協働空間」と、地域素材や建設技術を取り入れた「校舎の教材化」をコンセプトにしました。それがもつながら、それにもつながるものです。

ありがとうございます!また遊びにきたいな!



# 社会基盤デザイン学科

社会基盤デザイン学科は、実践的な建設技術を基礎として社会基盤をデザインする人材を育成します。地域とは人々の暮らしとコミュニティ、その活動の場を提供する居住空間、そしてそれらを支える社会基盤から構成されており、これらの中で本学科においては、地域の社会基盤、すなわち、インフラストラクチャーに関する課題に焦点を当てて教育研究を行います。したがって、その内容は自ずと総合的なものとなり、学際的な裾野は極めて広いものとなります。本学科では、前身となる建設学科建設工学コースで行ってきた社会基盤整備を担うハード面の教育に加えて、近年の少子高齢化や保有する社会基盤施設の維持管理・延命化、事業主体の債務超過対策、あるいは過去には想像できなかった災害への対応などを合理的に行うマネジメント能力

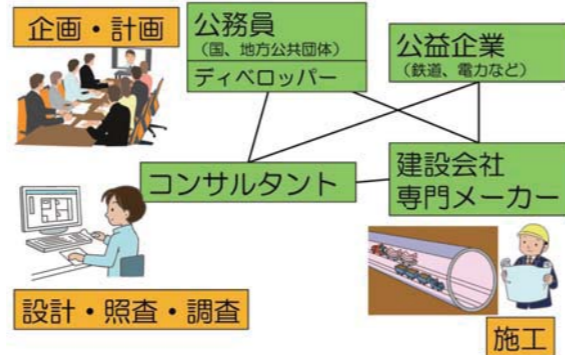
を有する人材の育成のため、ソフト面にも力点を置いた教育研究を行います。さらに、これらの地域社会の取り組みは諸外国、特に東南アジアの発展途上国の社会基盤整備のために重要な役割を果たすことが期待されます。

社会基盤デザイン（建設工学）は市民工学として工学の歴史の中では最も古くから存在し、文明社会を築いてきた学問体系で、分野の幅が広く、計画・設計から実施、維持管理まですべてが建設工学を必要とし、生活を支える社会基盤デザインに必要不可欠な分野です。本学科卒業後は公務員（国家公務員、地方公務員など）、公益企業（鉄道会社、高速道路会社など）、建設会社、コンサルタント、専門メーカーなどの幅広い業種での活躍が期待されます。

## ■ 社会基盤デザイン学科 研究教育分野

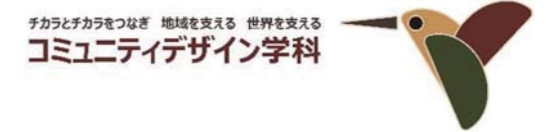


## ■ 就職先として想定される職業分野



# コミュニティデザイン学科

- 石井 「スタートまで半年を切りました。あらためて学科の魅力といいますか、先生方の思いを共有したいと思います」
- 塚本 「"まちづくりのプロを育てます" というのが学部のキャッチフレーズ。人と人とのつながりの中で考えていきたい」
- 中村 「それに、コミュニティの知恵と学問の知恵をつなぎ、デザインして行くこととなります」
- 中川 「何より実践の中から、コミュニティデザインの方法を学べるところが魅力ですね」
- 白石 「多角的・多面的に学び、考え、実践することを通して、新たな「地域」が見えてくるでしょうね」
- 高橋 「人々が暮らす地域がそこにある。わたしたちが学ぶべきことがここにあるわけです」
- 鈴木 「地域で学ぶ。地域を学ぶ。ということですね」
- 原田 「実学とは知識の使い方を身につけること。自ら問題意識を持っているんなことに飛び込んで行ってほしいです」
- 三田 「気がつくと地域の問題解決力、地域の魅力の発見力が身についている。いろいろ学べる楽しい学科ですね」
- 阪田 「試験に出ないことに興味をもって学ぶことができる。「要領の悪い人」がグンと成長できる学科だと思います」
- 中島 「不器用な人とはいいませんが、声の出せる環境は必要ですね。もちろん、それを引き出すチカラも」
- 若園 「教える・教えられる、ということではなく、教え合う・学び合うということが特別じゃなくなるでしょうね」
- 塚本 「得意を伸ばせば、苦手は気にならなくなります。伸びやかに学べる環境です。しなやかさを身に付けて欲しい」
- 大森 「しなやかに立ち向かう。一期一会という言葉が昔から好きです。理論と実践の往還を共に歩み続けたいです」
- 石井 「栃木に初めて来ました。暮らしやすく学びやすいまち。一緒に未来のまちへ出かけるぞ！と呼びかけましょう」



<http://rd.utsunomiya-u.ac.jp/> (新学部Webサイトアドレス)

## 地域デザイン科学部 公式Webサイト、SNS(Facebook,LINE)

地域デザイン科学部の新しい公式Webページは、パソコンやタブレット、スマートフォン等のマルチデバイスに対応し、新学部の最新の情報を得ることができます。

高校生にとって、頼れる受験支援サイトとなることも目指しています。

さらに、FacebookやLINEによる情報発信も行っています。

受験生の皆さん！新学部のWebサイトやFacebook、LINEを活用して最新の「地域デザイン科学部」の情報をGETしてくださいね！

■ 新学部 コミュニティデザイン学科 Facebook <https://www.facebook.com/uu.dcd>

宇都宮大学 地域デザイン科学部 LINE@ 公式アカウント

ID @udai\_rd

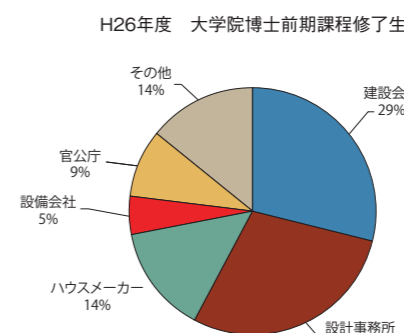
スマホの方はQRコードで 友だち追加

# 建築都市デザイン学科

■ 建築分野で活躍する宇大建築のOB・OG  
 建築都市デザイン学科は、1978年に設立された工学部建築工学科（現在の工学部建築学コース）が移行して設立される学科です。建築都市デザイン学科でも、これまでと同様に建築分野において活躍する設計者、技術者を養成します。建築学コースの実績を見ると、学部生では半数以上が大学院に進学しています。就職先は、学部生、大学院生ともに建設会社、設計事務所、ハウスメーカーなどに進んでいます。約40年の歴史の中で卒業していったOB・OGも企業や各種組織の中で重要な立場で活躍しています。そうしたOB・OGと現役学生との交流会が開催され、学生は最新の情報に接することができます。

■ 社会とつながる様々な学びの機会  
 4年生、大学院生は、各分野の研究室に所属し、設計や論文に取り組みます。研究室では外部の組織や企業等との共同研究などが行われており、そうした活動の中で、外部の情報に触れる機会も増えます。また在学中に、学業以外の幅広い経験の機会として、企業や自治体でのインターンシップ、見学実習などが行われ、学生の自発的な活動の機会が数多くあります。

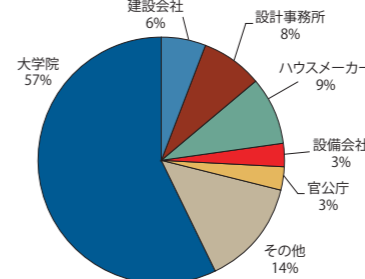
## ■ 分野別就職先の割合



## ■ 過去10年の主な就職先

- 【建設会社】
- 大成建設
  - 大林組
  - 戸田建設
  - 大和ハウス工業
- 【設計事務所】
- 日建設計
  - 梓設計
  - NTTファシリティーズ
- 【ハウスメーカー】
- 積水ハウス
  - 栃木セキスイハイム
- 【公務員】
- 栃木県庁
  - 宇都宮市役所
  - 静岡県庁
  - 青森県庁
- 【建材メーカー】
- 田島ルーフィング
  - BASFジャパン
- 【インフラ関係企業】
- JR東日本

## ■ 学部卒業生





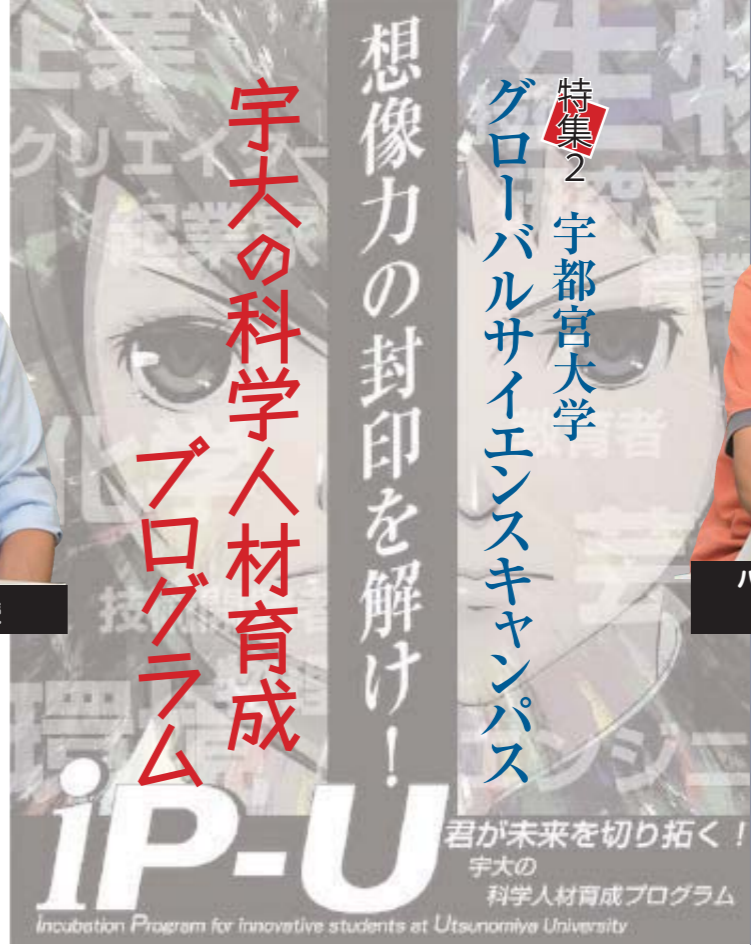
バイオサイエンス教育研究センター  
松田 勝 教授

特集2 宇都宮大学

グローバルサイエンスキャンパス

想像力の封印を解け！

宇大の科学人材育成  
プログラム



今回ご紹介したiP-Uの授業の様子が動画でもご覧いただけます。

[http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u\\_tunes/index.html](http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u_tunes/index.html)

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募した平成27年度「グローバルサイエンスキャンパス」に、本学の科学人材育成プログラム「iP-U (Incubation Program for Innovative students at Utsunomiya University)」が採択された。卓越した意欲・能力を有する高校生を対象に、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材の育成が目的。意欲の高い高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な、理教教育プログラムを受講してもらい、国際会議発表や論文投稿、科学オリンピックなどを目指す。プロジェクトリーダーの松田勝教授と大庭亨准教授に「iP-U」について聞いた。

(取材協力：工学部3年 佐々木混太)

ちが関わっているのか



取材協力 / 工学部3年 佐々木混太

つと根源的というか、その人が持っている根本的な資質のようなものが優秀な研究者や起業家には備わっているのではかというふうな考えで、その部分を cultivate (開拓) するようなプログラムにしようというのが特徴です。

— 宇大がこのプロジェクトを実施することの意義は

大庭 宇大のミッションというのは地域に対してどれだけ貢献できるかということです。教育面でどれくらい貢献しているかがポイントであり、地域における存在価値というものを自分たちで高めていくことは大事です。宇大はこれまで高校生向けのプロジェクトに積極的に取り組んできましたし、高校生の参加人数は日本のトップレベルにあります。宇大はとて面白いリソースをたくさん持っています。このような国の大きなプロジェクトの採択を受け、若い人たち向けのプログラムをつくっていくような良いコンテンツがたくさんあるということに私たちは誇りを持っていますし、学生も自分の大学に自信を持ってほしい。

— このプログラムにどのような先生た

— 宇大の学生がこのプログラムに関することはあるのか

大庭 これから、例えばティーチングアシスタント(TA)として大学生や大学院生が活躍する場が出てくると思います。高校生に教えたりする経験ですと、そういう良い循環ができていくことは大学生にとってもいいことです。

松田 僕が担当しているバイオテクノロジーの講座には今年も140人くらいの高校生が参加しましたが、TAがずっと高校生の相手をしています。iP-Uはそれぞれの高校のトップクラスの生徒が来ていますから、大学生もきつと刺激を受けるといいます。

— プロジェクトリーダーとコンメンプロジェクトに対する思いを

松田 JSTに先進的な理教教育を支援するスーパーサイエンスハイスクール(SSH)というプログラムがあります。SSH指定校は資金援助、海外の研修や学会発表の機会などのサポートを受けられます。自分が興味を持っている分野の有名な先生の話を聞くことや、同じような研究をしている人たちと情報交換することができ、高校に先生を招いて講演を聞く機会もあるでしょう。しかし、指定校に属していない生徒は、勉強を頑張っているにもかかわらずサポートを受けられない。指定校に属している生徒でも恩恵を受けている生徒と、そうじゃない生徒とではすごい落差がある。iP-Uのプログラムは、SSHの指定に関わらずやる気がある生徒をサポートすることができる。それが宇大の地域貢献の一環ではないかと思っています。

大庭 それぞれの生徒の中に眠っているものがあります。夢であったり、まだ夢の形となっていないものであったり、そういうものを引き出してあげるのが僕らの仕事なのかなと思います。高校生は触れられる情報に限界があります。高校の先生たちもすべてに精通しているわけではない。高校生は受験が第一ですから、そちらのほうにエネルギーもフォ

ーカスしています。ですから興味があっても自分を抑えつけて「大学に入ったら」というような考え方をする生徒が少なくないと思います。本当はもっとやりたいことがある生徒たちにもっと広い世界があるということを知ってもらいたい。そのきっかけに大学を使っていただけではない。松田 「iP-U」のキャッチフレーズ「想像力の封印を解け」は大庭先生のメッセージです。大庭 自分が持っている想像力に気づかないで、ずっと過ごしていつか後悔する。そういう生徒たちに自分の可能性や未来を見せてあげるのには、大学だからできることだと思っています。自分の中に秘めている可能性がiP-Uをきっかけに開花し伸びていく、そういう雰囲気、環境というのでしょいか、そういうものが広がっていくか、いいと思います。

iP-Uのプログラム

科学技術を使ってより良い世界をつくる人材を育成することが目的。英語コミュニケーション力、独創的研究ビジョンを描く「研究デザイン力」、粘り強く目標達成を追求する「セルフコーチング力」を数理能力と並ぶ基盤的能力と捉え、その育成を本学の実績ある実践的英語教育(EPUU)、創造性教育、コーチングにより支援する。同時に、生命、ロボット、感性工学など本学がリードする研究分野を含む様々なテーマで実験・実習を行い、科学技術の最先端を楽しみながら学ぶ。さらに基盤的能力を開花させた生徒を選抜し、大学教員らと個別の研究活動を共にしながら、国際会議発表や論文投稿などを実現する。本年度は定員60人のところに栃木・東京・神奈川・埼玉から134人の応募があった。

★iP-U 高校生のコメント

- ★将来の目標がNGOとか国際的な機関で働くこと。ただ勉強をやっているだけでは世界で戦っていけないと思っているので高校の勉強以外の部分でここで学びたいと思った。クリティカルシンキング(批判的思考)やネイティブの先生との英会話など楽しく学んでいる。(高校1年・男子)
- ★私はもともと英語や理系科目が好き。講義を通して専門的な知識にふれて自分の興味や好奇心、(科学を学ぶことが)好きだという気持ちをもっと伸ばしたいと思った。ハイレベルの講義なので自分の知識の物足りなさとか向上心というものをものすごく感じて、自分を伸ばさずきかかっている。(高校1年・女子)
- ★今までは学校で習ったことの世界しか目に入らなかった。いろいろな講義を受けて、いままで不思議だと思っていたことをちゃんと研究している人がいて、そういう人の話を聞くと研究ってすごいなと思った。そういうところで刺激を受けたり、ネイティブの先生との英会話の授業ではうまく話せないダメな部分に気づき、悔しいなと思って、英会話を頑張ろうと思えるようになったことがよかった。(高校1年・女子)
- ★将来、薬剤師になって治せない病気を治したいという夢がある。科学の楽しさを知って理系科目をより好きになりたいと思った。高校の授業は受け身になることが多い。ここは自分から自発的に活動できる。わからないところがあれば聞きに行けるところがいい。(高校1年・女子)
- ★小さいころから機械に興味があって機械などの専門知識を勉強したいと思った。将来、研究者になりたい。高校の授業よりもレベルの高いことを学べるので勉強になる。研究室で実際に大学生と話す機会があり刺激を受けた。(高校1年・女子)
- ★コミュニケーション能力を高めたり、発想力を身につけるというような内容が多く、想像以上に学べることが幅広く参加してよかった。高校の授業は先生の話を聞いているだけということが多く、実際に自分で考えて行動したり意見を言うという体験はここでしか味わえない。(高校1年・女子)
- ★部活で生物部に入って中学の時には全く知らなかった生物の世界を知り、iP-Uでより深く生物や科学を知りたいと思った。(高校1年・女子)
- ★いろいろな高校の人とふれあうことができて情報交換もできた。年齢層も1年生から3年生までいて、ふれあい方もそれぞれ違うのでいい経験になっている。(高校1年・男子)



セルフコーチング入門



メダカのDNA鑑定



グローバルコミュニケーション



プレゼン力養成講座



地球科学・微化石から進化を探る



グローバルコミュニケーション

(\*) EPUU (イープー) : 宇都宮大学基盤教育英語プログラム (English Program of Utsunomiya University)



大学院の仲間と日光にて。前列右から2番目が松澤康男名誉教授。後列右から3番目が川村さん。4番目は本学農学部 房 相佑 (ばん さんう) 教授。松澤先生には公私にわたり指導をいただいていたそうです



**川村 学 (Manabu KAWAMURA)**  
 1986年、宇都宮大学農学部農学科入学。  
 1990年、同大学大学院農学研究科入学。  
 1992年、同大学大学院農学研究科修了。  
 同年、(株)サカタのタネ入社。君津育種場勤務。  
 1994年、掛川総合研究センター勤務。  
 2007年、掛川総合研究センター育種第2課課長。  
 2015年、掛川総合研究センター副場長・執行役員。

# 「よりよい品種を求めて」 ブロッコリー一筋の品種改良人生

**OB.OG.INTERVIEW**  
 株式会社 サカタのタネ  
 掛川総合研究センター 副場長  
 Manabu KAWAMURA  
**川村 学**



「株式会社サカタのタネ」は1913年の創業以来成長を続け、世界有数の種苗会社として発展を遂げた。100年を超える歴史を基盤に90年には静岡県掛川市に掛川総合研究センターを設立。32ヘクタール(東京ドーム7個分)という広大な敷地で大規模な研究も可能な農場を所有し、さらにアメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカへと研究施設農場を広げていった。今回はその掛川総合研究センター副場長である本校卒業生の川村学さんを訪ねて話を伺った。

【写真上：左から川村 学副場長、インタビュアーの企画広報課学生スタッフ/教育学部4年・手塚祐奈、同/工学部3年・佐々木滉太】

## ■ブロッコリー一筋に

「もともと大学の研究室が育種学研究室で野菜の品種改良に興味を持っていましたので、そういうことができる種屋さん就職をしようと思いました」と川村さん。「サカタのタネ」は種苗業界の大手として様々な品種を手掛けており、川村さんの希望を叶えるにはぴったりな会社だった。農学部農学研究科の育種学研究室でアブラナ科の研究をしていた川村さんは種苗の研究ができる「サカタのタネ」に入社、それからブロッコリー一筋に研究し続けてきた。

「ブロッコリーは世界シェアの6割を「サカタのタネ」が占めています。キャベツやトマトなどの作物は国や地域によって形や色、好みが違うので、ひとつのタイプでシェアを高く維持することができません。ですからお客様のタイプを育種して、それぞれで高いシェアを維持しなくてはならないのですが、ブロッコリーの歴史はサカタが作りだした経緯があるので、ひとつのタイプの対応でよい品種があれば、世界シェアを維持できるのです。ブロッコリーに着眼してよい品種を生み出してきた先輩方の慧眼に感謝しながら、日々このシェアを維持できるように努力しています」

ブロッコリー一筋に研究してきた川村さんは熱く語る。ブロッコリーには次のような効用があるという。

「ブロッコリーは抗がん作用、ピロリ菌の死滅効果、コレステロールのコントロールなどにも効果があるとされており、非常に健康によい作物として、全世界で幅広く食べられるようになってきました。中国の消費量はものすごく伸びています」

「品種の改良には10年から20年のスパンが最低でも必要です。そんな先の時代にどのような品種が求められているのかとは、誰にも分からないですよ。そこで過去にどのような品種が求められてきたのか、振り返ってみると大きなヒントが得られることがありますね。もうひとつは幅広く品種を開発して、いろいろな品種のストックを持つておくこと。その品種の時代が来たときにすぐに商品展開できるような、幅広い品種のストックがあることが大切だと思います」

## ■農家さんの声を聴く

ブリーダーとして最も重要なことは何か? 「それは「農家さんの声を聴く」ということです。近年、日本は飽食の時代とも言われるほど豊かになり、消費者の食品への意識が強くなりました。野菜の外観や味、よさ、機能性などが注目されるようになり、農家はより魅力的な商品

し、スペイン系の人たちも伝統的に食べなかつたのですが、食べるようになってきました。また日本でも唯一消費量が増えている野菜の一つです」

## ■母校の恩師の影響を受けて

「家が農家だったので農業に役立てることがあればと、農学部がある宇大を受験しました。大学生活ですか? あまり勉強の記憶はないなあ。先生や先輩と日々いろいろなことを語りあっていましたね。今の学生さんよりさらに自由な感じだったかもしれない」

自由闊達な学生時代を懐かしそうに思い返す川村さん、大学の部活は柔道部に所属し数々の大会で上位入賞を果たしてきた。「今では年に2回OB会があり、OB戦と合宿がありますね。なかなか行けないのですが、4年に1回くらいは行けるかな? 柔道部の後輩には部活が存続するために頑張ってもらいたい。どちらかといえば指導が苦手なので後輩に厳しくはしないけれど、かかってくるやつには厳しくしますよ」

また、大学で出会った教授の影響が大きく人生の方向を決定したと話す。

「この仕事に進んだのは、母校の血嶋正雄先生(元宇都宮大学農学部教授)という当時アブラナ科の大家といわれた恩師の影響が大きかったですね。入社面接で希望部署を「育種をやっていたので、野菜の育種をしたい、それ以外はやりま

を提供しなくてはならなくなってきました。かたや、いわゆる地球温暖化など異常気象により野菜の栽培環境はきびしくなる一方です。加えて、国際的な価格競争の激化により生産コストをさげいく努力をしないと農家は生き残れない状況にあります。われわれの食料は、こうした農家の努力の賜物により供給されているわけで、その努力に報いるためにも、農家の声に耳を傾けて品種を育成していくことがヒット商品開発の近道だと思います」

現在は副場長としてマネジメントの業務が中心となる川村さん、今後の副場長としての抱負を次のように語ってくれた。

「今まではブリーダーとして現場で品種改良に直接従事してきましたが、これからは副場長として、若いブリーダーが気持ち良く仕事ができる環境づくりをすることが主なテーマですね。若いブリーダーたちが、楽しくかつ良い意味で緊張感を持ってやってもらえるように努力したいと思っています。それが、農家のためにより品種づくりにつながるわけですから」



【取材/文：アートセンターサカモト・栃木文化社 ビオス編集室】

# Welcome to 研究室&ゼミ

## 教育学部 学校教育分野 発達心理学 石川隆行 研究室



石川隆行 准教授



### ● 研究室概要

本研究室は、発達、教育心理学を中心分野として、幼児から大人までの社会性について明らかにする研究をしています。特に、罪悪感の出現におけるメカニズムの解明を目指しています。研究室に集まる学生さんには、人間の発達プロセスを探求することで、自分に興味を持ち、他者のために貢献できる大人に育って欲しいと思っています。

### ● 教員から

● 専門が発達、教育心理学で子どもの心を見つめるような研究をしています。ゼミ生の皆さんも将来、子どもを育てる立場になると思っていますので、子どもの心についてぜひ学んでいただきたいです。宇大は地域貢献を目指している大学です。どのような職業に就いてもそれぞれの立場で大学で学んだことを地域に還元できるようにして欲しいという思いがあります。大学は知の宝庫です。たくさんの学生、教職員と関わり、学問を通して社会に出る準備をして欲しいです。

医学が最新の医療を学んで患者さんを助けるように、最新の心理学を学んで、例えば発達障害の子どもを支援していくという学問が心理学です。その支援する心が地域への還元につながっていくと思います。いま、共生や支援が盛んに叫ばれる時代です。大学生活ではそのようなことを意識しながら学んでもらえればと思います。

### ● 学生から



学校教育専攻 4年 大越花怜

● 研究テーマは「罪悪感」です。私自身、罪悪感を感じ易いのでこのテーマを選びました。大学生を対象にアンケートを実施し結果を分析するのですが、相手に負担をかけないよう質問紙の内容を考えるのが難しいです。罪悪感は一見よくない感情というイメージを持ちがちで

すが、むしろ罪悪感を感じることで「次からは感じないように、もっといい方向に行動していこう」という気持ちが生まれ、その気持ちが自分自身の成長につながっていく感情で、罪悪感には前向きな面があることをゼミの研究で知ることができました。

● 私は小学校の教員志望です。幼稚園や保育園から小学校に進むにつれて、子どもはどんな心理的な過程を踏んでいくのか、そのつながりを知ることが大切だと考え卒業後幼児を研究しようと思いました。テーマは「幼児における実行機能と他者感情理解の関連性」。社会生活に

必要とされる「実行機能」と、怒ったり喜んだりする他者の感情を読み取る能力の関係です。幼い子どもはなかなか言葉が伝わらないのでコミュニケーションを取るのが難しいです。絵やボディランゲージで幼児の面談調査をしながら研究をしています。

● 心理学を学んできて、特に子どもの心理の発達に興味を持つようになり、発達心理学を専門とする石川先生のゼミを選びました。いま研究しているのは小、中学校のいじめ場面における加害者、被害者、周りで見ている子どもたちの心理です。質問紙調査の結果を分析したり、

面談調査、少年施設でのスタッフボランティアなどを通して、子どもたちがどう成長していくのか、教育の現場について学んでいます。将来、ゼミで学んだことを活かしつつ仕事に臨めたらいいなと思っています。

● 好きなテーマでなければ研究を続けるのは苦勞すると思ひ、自分が好きなものは何だろうと考えました。過去の時代のモノにふれてみたり話を聞いたりするのが好きで興味がありましたので、そのことを心理学と結びつけてみたいと考えました。研究のテーマは「懐かしく思う

感情とコミュニケーションスキルとの関係」です。前例がありませんので、どうしたらいいのか悩んで答えが出ず苦しくなったとき、先生やゼミの仲間の意見やアドバイスを聞いて「こうしていけばいいんだ」というビジョンを見つけたことができました。



総合人間形成課程 4年 山崎俊治



総合人間形成課程 4年 永井美奈子



総合人間形成課程 4年 山本涼一



### ● 授業概要

実社会では、多くの事柄がプロジェクトとして、あるいは他者との協働で行われています。学生が本学を卒業した後、そういう場面に直面しても慌てないよう、在学中に、自分たちでプロジェクトを企画し、実際にやってみる経験を踏むのがこの授業です。授業では、プロジェクトの発案、進行、協力者への働きかけ、中間発表・最終発表会の運営まですべて学生の手で行いました。



蜂屋大八 特任准教授



# Welcome to 授業



● 今回ご紹介した授業の様子が動画でもご覧いただけます。

[http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u\\_tunes/index.html](http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u_tunes/index.html)



## 基盤教育「体験! ぷろじえくと」

### ● 教員から

思った通りにプロジェクトが進まず、グループ内の温度差や方向性の違いに悩み、戸惑う学生たちの姿を見るたびに、担当教員としては「してやったり」とにんまりしています。そう簡単に答えが見つかるわけではありません。だって、答えは自分一人で作るものではなく、誰かと一緒に紡ぎ出すものですからね。それでも、授業開始時には文字通りゼロだったところから、4つのプロジェクトを立ち上げ、それぞれ素晴らしい成果をあげた受講生諸君の踏ん張りには、目を見張るものがありました。



### チーム名 YATTON

私たちはメンバーの名前の頭文字をとりYATTONというチーム名で活動しています。私たちは宇都宮市の豊郷地区の小学生を対象にサツマイモの苗植えから収穫までを体験し農業の大変さ、楽しさ、大切さを実感してもらうことを目的に企画を行っています。この企画を行うに当たり協力いただいた小林弘幸会長（豊郷地区子供会育成会協議会）をはじめとする多くの人にお礼申し上げます。最終的に収穫したサツマイモを豊郷地区の秋祭りでも販売し交流と貢献を果たしたいと思っています。  
農学部 1年 似内太一



### チーム名 PETTLE ものづくり体験

私たちはゲーム機での遊びが多くなっている現代の子供たちにペットボトルを用いてものづくりの大切さを伝えようということを目的とし活動しました。目的を達成するために実際にイベントを企画し、子供たちと一緒にペットボトルを使ったものづくり体験の場をつくるという目標を立てました。イベントのために、作り方の説明書をつくりたり試作を繰り返したり、放課後子ども教室や宇都宮市教育委員会の方々と協力をしたりしました。実際に関係してみると子供たちが物怖じせず積極的に参加してくれたのでとてもやりがいを感じました。  
農学部 1年 幅口慎一朗



### チーム名 スポーツ交流会

私たちはこの授業を通して、スポーツ交流会というものを計画しました。具体的な内容は、宇都宮大学に今年入学した同じ1年生として、これからは必ずどこかで関わりが生まれると考え、スポーツを通してより多くの人と交流を深めたいというものです。やはり他の人と一緒にチームスポーツをするというのは何よりも楽しく、それがたとえ初対面であっても変わらないものだと思います。企画・実行は大変でしたが、いい経験になったと思います。  
農学部 1年 山本大稀



### チーム名 宇大PR ストップモーション

私たちのグループは、ストップモーションという方法で動画を作成し、この動画を見た高校生やこれから入学する新入生に宇都宮大学の良さを分かりやすく、かつ楽しく知ってもらおうという目標に活動してきました。動画の内容は、私たちが一から話し合っ決めて決まりました。人数の多いグループだったので、意見をまとめるのが大変でしたが、その甲斐あってとても良い動画になりました。今後、宇都宮大学の動画サイトに載せていただく予定です。ぜひご覧ください。  
農学部 1年 大澤宏子



# 研究 Keyword

## 研究テーマと私のルーツ

国際学部国際社会学科

准教授 スエヨシ アナ

### ■研究テーマに出会う

プロフィールでご覧になったように、私はペルーで経済学部を卒業後、ペルーおよびラテンアメリカ経済に関連する研究に携わり、ペルー財務省に就職しました。退職後は、筑波大学大学院国際政治経済研究科へ進学し、現在宇都宮大学国際学部でラテンアメリカの経済・政治を教えています。私の経歴の中で共通している点は「経済」です。以下、現在の私の研究テーマに至った経緯について書いていきます。

現在、国際学部ではスペイン語とラテンアメリカに関連する授業を担当している一方で、2006年から本学の特定重点推進研究である「外国人児童生徒の教育環境をめぐる問題」（現在、文科科学省特別経費プロジェクトでFUNDINGという名称に至っている）にも関わってきました。実際に、このテーマへの関心は大学院生時代からありました。私が1997年に大学院進学のために初来日した時は、出稼ぎ現象が始まってからまだ10年も経過しておらず、来日する南米出身の日系人の数が増加し続けていた時代でした。当時、北関東には多くの南米出身出稼ぎ労働者がいて、既に来日していた知人や親戚から色々な話を聞かせてもらいま

### PROFILE

本国ペルー・リマ市のUniversidad del Pacificoの経済学部を卒業後、1989～1992年母校の所属研究所で研究補助員。1992～1993年国連開発計画(UNDP)の経済アドバイザー、1994～1997年ペルー財務省の経済アドバイザー。1997～2004筑波大学国際政治経済研究科博士前期・後期課程。2004～2006年同研究科外国人研究者。2006年4月より宇都宮大学国際学部国際社会学科でスペイン語とラテンアメリカに関する科目を担当。



国際学部国際社会学科 准教授 スエヨシ アナ

た。

それから、毎年ペルーで追跡調査を行う中で2008年9月に発生した国際金融危機(リーマンショック)の影響で日本から帰国した人が最大数になる中、2010年から2013までは毎年生徒の追跡調査を実施しました。そして、2011年と2014年の3月に日本育ちの帰国者の進学についての調査も行いました。今年の8月調査では、小学校課程まで日本で教育を受け、帰国した高校卒業者の進路についての調査も行いました。帰国後のペルー社会適応や、学力向上などの成長過程を確認することができました。

この調査を継続することによって、共同研究チームに貢献しながら、ペルーからの出稼ぎ労働者の子どもの教育問題について日本とペルーでの認識を高めると共に社会にも貢献できると思えました。共同研究チームにおける自分の居場所を見つけられました。

### ■日系人論

調査の対象者は、ほとんどが日系ペルー人です。それがきっかけで2013年から京都にある国際日本文化研究センターの「新大陸の日系移民の歴史と文化」という共同研究に参加し始めたおかげで、同じ研究テーマを別の観点から捉えて活かすことが出来ています。振り返れば大学院生時代に興味を持ったテーマと関わるようになったのです。まさに私にとって同国籍・同民族社会の問題を把握し、理解を深めることで何かしら貢献できるが見えてきたのです。

## わたしの 学生時代

### 大学には新しい世界が広がっていた

ペルーでは日本より1年早く大学生になります。教育制度が日本の「6・3・3制」に対して中学と高校が合体した「6・5制」だからです。そのかわり大学は日本より1年長く5年制です。私が経済学部を選んだのは将来企業で働きたいという思いがあったことと、その当時(1980年代)、ラテンアメリカは「失われた10年」と言われるように経済状況が最悪で「経済を勉強しなければならない」と思ったからです。ペルーから日本への出稼ぎ労働者が急増した時代です。

ペルーは産業革命がなかった社会と言われています。



ペルーの研究室時代。友人と世界遺産マチュピチュにて(筆者右)

天然資源が豊富で、それだけで経済を動かしてきた歴史があり企業で働く人材が乏しい。母校はペルーのリーダーを多数輩出している大学で、優れた経営陣・経済人を養成するため企業が設立した私立大学です。学生は「学ばないと親に悪い」という思いが強く、企業も即戦力を求めていましたのでとにかくよく勉強します。そんな学生たちを見て大学側が「勉強するばかりではだめ。人生の中でバランスをとらないといけない」と必修科目として「サークル活動」を設けたほどです。私は卓球やフランス語、スケッチ、映画批評、読書研究会などを選択しました。

大学卒業後、ペルーの研究所や財務省勤務を経て筑波大学に留学しました。留学したいという思いはずっとありましたが、学生時代は留学できるような状況ではありませんでした。

私はペルー北部の出身です。地方と首都リマでは教育格差があり、リマでの勉学には不安もありましたが大学時代をすごく楽しむことができました。大学には新しい世界が広がっていました。人間として世界にあるものとの関係、人と人との関係など、そこまで勉強できるのかとすごく感動しました。だから毎日楽しく大学に通っていました。

スエヨシ アナ

### ■移民の教育

2008年3月及び2009年8月

た。私は、彼ら彼女らの国境を越えた生活について、移動によって受け入れ社会及び送り出し社会がもたらした変化という観点から興味を持っていました。自分の専門とは異なっていました。そのため、来日しているペルー人出稼ぎ労働者について他の研究者が研究することを期待しつつも、ペルーの新聞に何度か投稿し、日系ペルー人が置かれた日本の状況を伝え続けました。宇都宮大学に着任してからは、国際学部と教育学部の教員と共に、外国人労働者の子どもの教育問題に関しても様々な面で関わってきました。しかしながら、ここでも私の研究上の悩みは解決されませんでした。研究テーマの専門ではない上に、日本の教育に詳しくいなくてもなく、事務経験すらない私は本研究に貢献できていないと思っていました。まさに行き詰まっていた時、それまで関わった教員・研究者・現場の先生と意見交換等をした際に日本からペルーへ帰国した子どもがいることを知り、そうだ、彼ら彼女らの母国におけるペルー教育への適応状況について調べてみようと思いい立ちました。

聞き取り調査では、机を挟んで対象者と私が座り、日本とペルーの家庭・学校生活について語ってもらいました。このような聞き取り調査も初体験で、対象者が心を開かずあまり話してく

## My Campus Life



## 本学 谷田貝豊彦 オプティクス教育研究センター長が県の文化功労者に選ばれました

本学オプティクス教育研究センター長の谷田貝豊彦教授が、平成27年度の栃木県文化功労者に選ばれました。谷田貝先生は光学研究で国際的な実績を残され、現在は日本人で初めての国際光学会(SPIE)の会長として活動されています。宇都宮大学オプティクス教育研究センター長に就任後、センターの設立、発展に大きく貢献され、栃木県を世界の光学拠点にするため活動されてきました。活動分野は教育、研究、産学官連携など非常に多岐にわたります。今回こうした功績が高く評価され、栃木県文化功労者の受賞に至ったものです。

## 大学教育再生戦略推進費「地(知)の拠点 大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されました

本学は、栃木県内外の高等教育機関、栃木県、栃木県経済諸団体、県内企業等と連携し、「輝くとちぎをリードする人材育成地元定着推進事業」として、文部科学省の大学教育再生戦略推進費「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に申請していましたが、この度当該事業が採択となりました。本事業は、県内の優秀な高校生を積極的に受け入れる入口施策、栃木県の魅力を学生に伝える教育プログラム改革による人材育成施策、地元での雇用環境の整備を強化する出口戦略等により、県内の学卒者就職率をアップさせ、地域の活性化を目指すものです。

## 第12回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者が決定!



第12回宇都宮大学ベストレクチャー賞の表彰式が9月28日(月)に大学内で開催された「全学FDの日」において行われ、石田学長から受賞者に対し表彰状が授与されました。

第12回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者

- 国際学部専門教育科目 清水奈名子
- 教育学部専門教育科目 岡澤慎一 石川隆行 大森玲子
- 工学部専門教育科目 星野智史 藤原浩也 池田裕一
- 農学部専門教育科目 謝尚男 蕪山由己人
- 基礎教育科目 陣内雄次 松山公正 丁責連 東剛人

## 第64回関東甲信越大学体育大会での本学学生の活躍



平成27年8月16日(日)から8月31日(月)の16日間にわたり、第64回関東甲信越大学体育大会が開催されました。本学学生240名が15競技に参加し、以下のとおり上位入賞しました。

【団体戦】  
優勝 バレーボール(男子・女子) ※女子は4年連続優勝  
第3位 準硬式野球 テニス(女子)

【個人戦】  
陸上競技 男子走高跳 第2位 小森翔太 教育学部2年  
水泳 男子100m自由形 第1位 佐藤勝哉 教育学部2年  
男子50m自由形 第2位 佐藤勝哉 教育学部2年  
女子100m自由形 第3位 田北唯真 教育学部2年

## 本学開発のイチゴ保存容器「フレシエル®」が超モノづくり部品大賞奨励賞を受賞しました



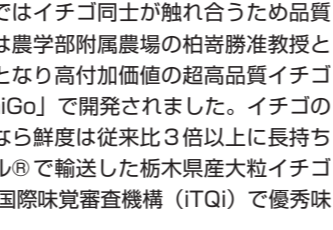
宇都宮大学発で開発し、大学発ベンチャー「工農技術研究所」が商品化した完熟イチゴ単品運搬容器「フレシエル®」が2015年「超モノづくり部品大賞」の奨励賞を受賞しました。10月13日東京都内のホテルで贈賞式が行われました。

超モノづくり部品大賞は、モノづくり日本会議と日刊工業新聞社が主催し日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材にスポットを当てた顕彰制度です。今年で12回目の開催となります。

イチゴは傷みやすく従来の容器ではイチゴ同士が触れ合うため品質劣化が課題でした。フレシエル®は農学部附属農場の柏崎勝准教授と工学研究科の尾崎功一教授が中心となり高付加価値の超高品質イチゴの海外流通を目指す「Project iChiGo」で開発されました。イチゴの品質を保持し、約6℃の冷蔵状態なら鮮度は従来比3倍以上に長持ちし輸出に対応できます。フレシエル®で輸送した栃木県産大粒イチゴ「スカイベリー」などがベルギーの国際味覚審査機構(ITQi)で優秀味覚賞を受賞しています。

超モノづくり部品大賞贈賞式には工農技術研究所のメンバーが出席し、代表して高橋庸平研究員が表彰状を受け取りました。高橋研究員は「このたびは大変栄誉ある賞を賜り、ありがとうございます。超高品質特大イチゴをたくさんの人々の手に届けられるように邁進したく思います」と受賞の感想を話しています。

超モノづくり部品大賞贈賞式には工農技術研究所のメンバーが出席し、代表して高橋庸平研究員が表彰状を受け取りました。



超モノづくり部品大賞贈賞式には工農技術研究所のメンバーが出席し、代表して高橋庸平研究員が表彰状を受け取りました。

## 教職センター 現職教員等を対象に「教職員サマーセミナー」を開講

今年も夏季休業を利用して、今日的な教育課題についての見識を深め、幅広い教師力を身に付けることを目的とした、教職員サマーセミナーを開講しました。

今年度は、道徳教育や特別支援教育、保健体育、理科教育に加えて、国語の教科経営や授業研究の方法を学んだり、美術作品を制作したりと、内容の幅が広がりました。

全10講座の応募者は516名で、(定員342名)急遽定員を増やすなどして対応し、セミナーには、公・私立学校教員のほか、教育委員会職員の参加もあり、最終受講者は昨年度比1.5倍となる456名であり大盛況でした。

## 宇都宮大学基金へのご協力のお願い

日頃より宇都宮大学の教育・研究・社会貢献活動に温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。宇都宮大学基金では、次の事業を行うことを目的に、寄付をお願いしております。

- ①学生・生徒・児童等に対する支援
- ②国際交流の支援
- ③教育研究活動等への助成
- ④キャンパス環境の整備・充実

右ページの振込用紙をご利用いただくほか、クレジットカードによるお手続きも可能です。

詳しくは宇都宮大学基金ホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。

http://www.utsunomiya-u.ac.jp/kikin/  
○問い合わせ先：宇都宮大学基金事務局 TEL：028-649-8177  
E-mail：kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



## 宇大生は Vol.2 宇〜太が行く! (待望の連載化か!)

男女ともに 関甲信 総合優勝! バレーボール部



宇〜太だよ! ついに「宇〜太が行く!」第2回、そろそろ連載化決定かな? また学内で元気に活動しているサークルを紹介するよ。今回は「バレーボール部」。第64回関東甲信越大学体育大会で男女とも優勝した実力派! さあ、バレーボール部にまた体当たり取材だ!

宇〜太もバレー部の練習に混ぜてもらったよ! かつこいとこ見せちゃおー。orz... (宇〜太のグダグダな姿はぜひ動画を見てね!) ひいひい。やっぱり関甲信で優勝するだけのことある。さすが名門バレーボール部! もう疲れた。取材やめてかえろかな。うわ、バレー部の女子が来た、いや、かえらんだってば、かえる、かえる! (無理やり部員に取材に連れて行かれたが、ホントは楽しそうに取材開始)

教育学部総合人間形成課程4年の関根健太さん、黒後彩乃さんの男女両キャプテンに話を聞いたよ。

宇〜太：第64回関東甲信越大学体育大会、総合優勝おめでとうございます!  
黒後：ありがとうございます! 地元開催(宇都宮市)だったのでとってもうれしかったです! 3年前の関甲信でも男女で優勝しました。  
関根：女子は結構優勝(4年連続優勝!)してるんですけど男子は……。アベック優勝は3年ぶりです。  
宇〜太：練習がんばってるよね! 少し見学したけどすご〜くハード! みんな気合い入りまくりだね。  
関根：いや、それほどでも...でも男子は女子の迫力にちょっと負けるような...  
黒後：(笑) 女子は声の出方がすごいですね。でもダイナミックさでは男子にはかなわないですよ。  
宇〜太：練習の中でいつも意識していることはなんですか?  
黒後：雰囲気作りかな? やはり練習はハードなので、厳しい中にも楽しさがないと続かないですね。  
関根：自分は思うんですが、「もっと練習したいな」が足りないように思います。「もう辛いな」っていうのはよくないと思うのですが、やはり楽しいだけじゃなくて勝ち負けにこだわる部分は大切にしていきたいです。

宇〜太：歴史と伝統があるバレーボール部だけど、卒業した先輩はバレーボールを続けているの?  
黒後：半々ぐらいかな。指導する側に回ったりとか、プロの道に進んだ先輩方など、偉大な先輩たちがたくさんいます。そんな先輩たちが来てくれて一緒に練習に参加したりしてくれます。とってもありがたいですね。  
関根：県代表として国民体育大会で活躍している方もいます。我々も先輩たちと一緒に連合で青年の部に出場します。

宇〜太：すごい先輩方がたくさんいるんだね! ちょっとプレッシャーだったりもするのかな? それじゃあこれからの目標を教えてください  
黒後：4年生は12月が最後の大会です。最後はやっぱりいい結果で終わりたいので、そこに向けて練習を強化していきます。みんながんばります!

宇〜太：最後の大会という?  
関根：全日本インカレです。バレーボール部が参加する大会の中では一番大きい大会で、自分たちの最終目標ですね。11月30日からトーナメントが始まって、12月4日が決勝です。  
宇〜太：最後の大会に向けてこれから大変だね! がんばれ〜! 最後に応援してくれている皆さんにメッセージをお願いします!

関根/黒後：いつも応援ありがとうございます! 今インカレに向けてみんな丸となって頑張ってます! 引き続き温かい声援よろしくおねがいします!  
今日は宇〜太、女子の部員さんに大人気! ちょっと引いちゃった? 時もあったけどとっても楽しかったよ。またいっしょうけんめいな練習の姿を見てとっても感動! これからもバレーボール部のみんないい成績が取れるように宇〜太も応援してます! 宇〜太でした!



■今回の宇〜太の体当たり取材、ショートムービーにしてみました! 必ず見てね!  
http://www.utsunomiya-u.ac.jp/u\_tunes/index.html



左から、教育学部総合人間形成課程4年 柴田恵、同女子部キャプテン黒後彩乃、同男子部キャプテン関根健太



# INFORMATION



宇都宮大学  
携帯サイトへGO!  
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp>

## 第67回 宇都宮大学 峰ヶ丘祭

テーマ：**YOUとPEERでUTOPIA!**

連日開催

**11月21日(土)**

- 14:00~15:00 ステージ企画① 峰ヶ丘 秋の陣 ~勝利の鍵は少数派!?~
- 15:00~15:45 お笑いライブ (ニッチェ・アナクロニスティック・高橋ちゃん)
- 18:00~ 学園祭アーティストライブ (KEYTALK)

**11月22日(日)**

- 10:30~ いまなんじ?くじ!
- 17:00~18:00 ビンゴ大会
- 12:00~15:00 わくわく理科実験教室
- 15:00~16:00 ステージ企画② 男女装コンテスト ~変身?それとも変態?~
- 18:00~花火
- 15:30~ 学園祭アーティストライブ(Czecho No Republic)

お問い合わせ先  
<https://minegaokasai.com>  
TEL 028-634-5877  
宇都宮大学大学祭実行委員会

JR宇都宮駅バス 10分(JRバス)  
東武宇都宮駅から15分(JRバス・東野バス)  
※いずれのバスも「宇大前」下車です。

●当日のお車でのご来場はご遠慮ください●  
ポスター制作 宇都宮大学大学祭実行委員会

### 第67回峰ヶ丘祭オープニングパレード (学生主催)

日時：11月14日(土) 12:00~(予定)  
※宇都宮大学から宇都宮市内をパレードし、大学祭のPRを行います。  
問い合わせ先：宇都宮大学峰ヶ丘祭実行委員会  
TEL：028-634-5877

### 平成27年度宇都宮大学附属図書館企画展案内

テーマ：「世界で評価される日本文化」  
期間：11月22日(土)~12月25日(金)  
場所：附属図書館本館3階  
問い合わせ先：学術研究部図書館課企画調整係  
TEL：028-649-5130/5128

### 第12回学生&企業研究発表会

宇都宮大学のほか、県内大学の学生による地域の活性化につながる研究や、人間生活の向上や改善に関する研究成果の発表を通じ、地域における学と学との交流、並びに、産学官交流を図ります。  
主催：大学コンソーシアムとちぎ  
学生&企業研究発表会実行委員会  
地域連携事業委員会  
産学官連携サテライトオフィス事業委員会  
日時：11月28日(土) 9:00~17:15  
会場：宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス  
宇都宮市大通り1-3-18  
問い合わせ先：産学官連携サテライトオフィス  
TEL/FAX：028-667-0001  
E-mail：sat@khaki.plala.or.jp

### 教職センター 10月に峰町7号館1階へ移転!

教職センターは、峰町7号館の改修工事竣工に伴い、峰町8号館1階から7号館1階へ移転し、リニューアルオープンしました。  
今まで以上に、全学の学生や卒業生の教職に関する相談等で来室されることを願い、教職員一同お待ちしております。



問い合わせ先：教職センター TEL：028-649-5272  
E-mail：kyosyoku@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

### シンポジウム開催「宇都宮大学のチャレンジ ~地域と大学の支え合い~」

日時：12月12日(土) 14:00~  
場所：栃木県教育会館大ホール  
内容：防災、まちづくりに焦点を当てた話題提供やパネルディスカッション、平成28年4月発足の地域デザイン科学部の紹介を行います。  
問い合わせ先：教職センター TEL：028-649-5272

### 附属特別支援学校公開研究会

研究主題：共に生きる力を育む教育の実践  
~『つながる力』に着目した授業作り~  
日時：2016年2月19日(金) 9:00~16:20  
場所：教育学部附属特別支援学校  
内容：全体会、公開授業、情報交換会、講演会  
問い合わせ先：教育学部附属特別支援学校 TEL：028-621-3871

### 学校活性化フォーラム~校内研究授業を元気にする~ (教職センターと教職大学院との共催イベント)

日時：2016年2月13日(土) 10:00~17:00  
場所：宇都宮大学(峰キャンパス) 峰町8号館  
内容：教職大学院の教育実践プロジェクトの報告会、パネル・ディスカッション、ラウンドテーブル  
問い合わせ先：教職センター TEL：028-649-5272

## UU now 38号

■ 企画広報課では、皆さまの声をお待ちしております。ご意見・ご要望などをお寄せください。  
【宛先】宇都宮大学 企画広報課  
〒321-8505  
栃木県宇都宮市峰町350  
TEL：028-649-8649  
FAX：028-649-5026  
E-mail：plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



■ 編集協力  
アートセンターサカモト  
栃木文化社ビオス編集室

■ 発行責任者  
藤井 佐知子 理事  
企画・広報担当

■ 取材アシスタント  
(企画広報課学生スタッフ)  
手塚 祐奈 教育学部4年  
築田 恵 教育学部4年  
佐々木 滉太 工学部3年  
宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇く太」

■ 編集委員  
中村 祐司 国際学部教授  
小原 伸一 教育学部教授  
江川 千佳司 工学部教授  
飯山 一平 農学部准教授  
中野 達也 工学部准教授  
加藤 丈雄 企画広報課職員  
渡邊 文彦 企画広報課職員  
五月女 優子 企画広報課職員

■ 企画・編集  
宇都宮大学  
UU now 第38号編集委員